

女と男がともに生きる未来へ

Step

vol. 16

わたしの防災力

泉南市

避難所ではプライバシーが
確保できず、
大きなストレスとなった。

セクハラに耐えられず、
傾いた自宅に
戻ってしまった。

実際に被災地で発生した 問題や要望です。

災害現場ではこのような問題に苦しむ女性たちがいました。

実際にこの状況に追い込まれたとしたら…。

あなたは非常時だから、仕方がないと我慢できますか？

参考：『阪神・淡路大震災教訓情報資料集』内閣府

『女性・地域住民からみた防災施策のあり方に関する調査結果について』
全国知事会／男女共同参画特別委員会／災害対策特別委員会

多くの体育館では、
更衣室なども
避難場所に
使用されていた。

「赤ちゃんの夜泣きで
迷惑をかけてしまう」と、
周囲に気兼ねしながらの
避難所生活。

「乳児用のミルク」
「アレルギーをもつ
子どもの特別食」
など、ニーズに
応えられなかった。

物資を配布する際、
並ばせて渡すと、
障がい者やお年寄り、
赤ちゃんを抱えた人は
困る。

仕切りの段ボールの
すき間から男性に見られ、
恐怖や緊張から
不眠やうつ症状になった。

下着や生理用品の
替えがなく
外陰炎や膣炎を
起こした。

避難所内に不審者が
夜間にまぎれこんできて
イタズラをするなどの
事件が絶えなかった。

女性は下着の着替えに
非常に困り、
夜に消灯してから
布団の中でもぞもぞと
着替えていた。

高齢者や身体障がい者、
妊婦などに部屋を
設けるなどの
対応がとられなかった。

下着などを干すための
女性専用の洗濯物
干し場があれば安心できる。

妊産婦や
足腰の弱い高齢者は、
和式トイレの使用が
困難だった。

トイレを我慢して
ぼうこう
膀胱炎になった。

ミルクや離乳食などを
作るための調理場が
あれば便利。

災害後、増える女性へのさまざまな被害。 復興の影に隠れた声に耳をかたむけて。

阪神・淡路大震災では、女性の方が1,000人多く亡くなりました。女性の低賃金による年金額の低さから貧困につながり、老朽化した住居に住まざるを得なかったことが要因のひとつです。避難所生活においては、トイレや更衣室の配慮がない、子どもが周りに迷惑をかけるなどを理由に、半壊の自宅に戻る人もいました。共に災害を乗り越えるはずの夫を会社が被災地域外へ単身赴任させ、子育て支援の再開もままならない中、母親が一人で家庭を支える状況もありました。さまざまな不安から子どもや女性への虐待も増えました。当時はDVという言葉も、女性への暴力についての対策もありませんでした。ある妊娠中の女性は、避難先の彼氏の家で暴力を受け、彼の家族から「あんたが息子を怒らせるから」と言われたそうです。DV被害女性



正井 礼子さん
NPO法人
女性と子ども支援センター
ウィメンズネット・こうべ代表

男女平等と女性の人権擁護をめざして1992年「ウィメンズネット・こうべ」を発足。阪神大震災以降「女性に対する暴力」の根絶に向けた活動、特にDV被害女性に対する支援活動に力を注ぐ。

の多くが電話相談で「家庭内のこんなつまらないことを相談する私はわがままですか?」と話されました。仮設住宅で性被害にあった女性は「すぐに訴えたらよかった」との声に「そこでしか生きていけないから、誰にも被害を打ち明けられない」と涙を流されました。東日本大震災でも、プライバシーの配慮がないために自宅に戻られた方も多かったようです。医療だけでなく、介護チームを派遣して欲しかったとの声もありました。シングルマザーは仕事を失い、今も不安な日々を送っています。女性の雇用の創出など、生活再建を支援する制度が必要です。復興会議などへの女性の参画も非常に少ないようです。

防災は日常から始まります。災害時に何が起っていたのか。救援に関わる男性にも知ってほしいです。女性の声を聴き、復興に活かすためには、日頃からさまざまな活動の運営に女性が参画するよう、啓発することが大切です。

参考文献



※写真は『女たちが語る
阪神・淡路大震災』

『女たちが語る阪神・淡路大震災』
『災害と女性』
『被災地における性暴力』
ウィメンズネット・こうべ編／木馬書館

望まぬ震災同居、震災離婚、性的被害…。
高齢女性の犠牲者が多い現実。男性の復興の陰で報道されなかった女性たちの声が集められた一冊。

防災計画作り、避難所の運営… 日頃からの女性の参画が重要です。

避難所では、生活物資の供給、トイレ、プライバシーの対応などが必要となりますが、そもそも女性と男性では必要な生活環境や物資に違いがあります。加えて妊産婦や乳幼児と母親、高齢者・障がい者、慢性疾患を持った人、外国人への支援も求められます。それだけに、避難所運営に関わる責任者などに、生活をイメージできる女性たちがしっかり参画していないと、被災者の健康や心身に影響を及ぼしてしまいます。また、食事の支度や掃除は女性の仕事、といった固定的性別役割を持ち込まれると、女性ばかりが疲弊してしまいます。復旧・復興期に入ると、家の片付けや生活再建のための手続きなどに迫られますが、子どもの一時的な預け先や介護サービスの不足などで、主に女性たちが苦勞します。狭い仮設住宅での暮らしや被災による同居、家族・コミュニティ・生きがいなどを失った孤独感や喪失感などが複雑に絡み合い、ストレスや体調不

良、ひいては家庭内の暴力や虐待などにもつながります。男性においても、復旧作業中での過労死や、孤独死などの危険性が高まり、父子家庭や要介護者を抱えた人もいます。男女双方の視点で、相談・メンタル支援を行う必要があります。さらに、支援する側においても女性と男性では、被災者の方のニーズを考える際の、想像力や対応力に差が生じます。例えば、避難所リーダーやボランティアが男性だけでは、女性は下着などの要望を出しにくいですし、女性ならではの悩みや苦勞に気付きにくくなるでしょう。ボランティア自身の心身の安心の為に、リーダーやスタッフには男女両方が入るようにし、どのような悩みや課題・問題でも、すぐに相談・対処しやすいようにしておくことは必須ですね。

災害に備えて、学校や公共施設が避難所となった場合の運営方法などを、地域住民が参加して事前に話し合っておくことや、防災計画やマニュアルで対策を具体化することも重要です。トイレや女性用更衣室などの設置ルール、要介護者や車椅子の人たちの優先スペース、在宅避難者への物資提供などについて確認し、運営責任者に女性を入れることも含めて明文化しておくことが重要です。



浅野 幸子さん

全国地域婦人団体連絡協議会
事務局・研究員
早稲田大学 非常勤講師

阪神・淡路大震災でボランティア団体スタッフとして仮設住宅や復興まちづくり支援にたずさわる。専門は、地域コミュニティ政策、地域防災・復興、非営利組織論。

参考文献



『災害社会学入門』
／弘文堂

「総合的な視点」が求められる、災害と女性／男女共同参画の課題を考える上で役立つ一冊。7章で浅野さんも執筆。

あなたは あなたのまちは 大丈夫？

災害に備えていますか？ ～男女共同参画の視点で～

☒ 日頃からの意識が大切。あなたはすべてチェックできますか？

地域の防災活動などに参加している

防災について話し合う際や、地域の人のつながりづくりにもとても有効です。家族や職場などの全員で参加する機会を持ちましょう。

地域の何らかの組合に女性が参加している

地域で意見を言う機会や、決定権を持つ女性が存在するかしなだけで、災害時に女性の意見が反映されるかが大きく左右されます。

子どもの友達の名前を5人以上言える

子どもとのコミュニケーションがどの程度とれているかの、ひとつのパロメーター。家族全員が把握できているといいですね。

町内会や学校の行事に夫も妻も参加している

参加して、顔見知りを増やしておく、災害時に「あの家には小さい子や高齢者がいる」などと近所の人に気にかけてもらえます。

日頃から家族で避難について話し合っている

家族はいつでも一緒にいるとは限りません。特に日中バラバラになっている時の連絡方法や避難先などを確認しておきましょう。

男女ではなく、能力で役割分担できている

性別ではなく、得意なことやできることで役割分担をしてみましょう。いざというときに、その人の能力が十分に発揮できるはずです。

災害時に備えて、非常用具以外にも、こういった視点で準備を進めておくことが大切です。

過去の震災を教訓に、素早い対応がなされました。

『東日本大震災における女性の視点・ニーズを反映した避難所での好事例』（内閣府男女共同参画局）を参考に作成

東日本大震災における

女性の視点・ニーズを反映した避難所

女性専用スペース

心境・不安を語り、情報の提供や交換、相談などができます。湯沸かし、着替え、授乳、お化粧など、様々な目的で人が常に集まり、和やかに笑い声が聞こえるスペースです。



女性に配慮した設備

女性専用の物干し場や男女別の入浴所・更衣室を設置しています。



安全のよびかけ

女性や子どもはひとりでトイレに行かないように注意喚起を行っています。



乳幼児家庭用のスペース

乳幼児のいる家族だけが滞在する部屋を設置し、赤ちゃんの夜泣きや騒ぎ声、授乳など、周りを気にせず、お母さん同士の情報交換などにもつなげています。

雇用の創出

被災者の雇用を新たに創出するため、避難所での炊き出し、遺品や写真の洗浄をする人を役場で募集し、雇用しています。

女性のニーズなどを反映した避難所運営

ある避難所内では毎日女性リーダー会議を実施し、女性のニーズを反映しています。また、区長と婦人部が協議して避難所を運営し、毎朝食時にその日の予定を協議しているところもあります。

外出先で

オフィスで

持ち歩き！ 非常セット

災害はいつどこで起こるか
わかりません。

自分のバッグに入る量の
防災グッズを普段から
持ち歩いてみましょう。

- 携帯トイレ
- 携帯ラジオ
- 笛&LEDライト
- 防寒ブランケット
- あめ
- 除菌ウェットティッシュ
- ペットボトル飲料
- 小銭(10円玉、100円玉)
- 常備薬
- 携帯カイロ
- 生理用品(止血にも使える)



オフィスなど、ヒールで過ごす場所では運動靴を常備すると安心。
笛やライトは鞆からすぐ取り出せる場所に。
救助を待つときなど、自分の居場所を知らせることができます。



泉南市の相談窓口

女性相談(面接)

女性カウンセラーがあなたの立場にたってサポートします。自分の気持ちを素直に表現しながら、いま困っていることと向き合ってみませんか？ひとりで悩まないで、気軽にご相談ください。相談者のプライバシーは厳守します。

日時: 第1金曜日/午後1時～4時 第2火曜日/午後6時～9時
第4金曜日/午前10時～午後1時

場所: 水道庁舎1階、人権推進部相談室

※相談はひとり1時間程度。 ※電話予約が必要です。

問い合わせ: 泉南市人権推進課男女共同参画係

TEL 072-480-2855

DV・児童虐待相談

子どもや家庭に関するあらゆる相談を行っています。また、配偶者暴力相談支援センターを設置し、配偶者などの暴力に関する相談を行っています。被害を受けたあなたに責任はありません。来所をお待ちしております。

日時: 午前9時～午後5時45分(土、日、祝日、年末年始除く)

場所: 〒596-0043 岸和田市宮前町7-30

交通案内: 南海本線「和泉大宮」駅より約800m

問い合わせ: 大阪府岸和田子ども家庭センター

TEL 072-445-3977
FAX 072-444-9008

女性のための電話相談

話すことで気持ちが少し楽になったり、問題が整理されることもあるかもしれません。「最近、夫と話す機会がない」「近所付き合いがうまくいかない」など、どんな内容でも構いません。女性相談員があなたからの電話をお待ちしています。

日時: 毎週木曜日(祝日、第5木曜日除く)
午前10時～12時、午後1時～3時

問い合わせ: 泉南市人権推進課男女共同参画係

TEL 072-480-2855

相談専用電話 TEL 072-482-0590

※ナンバーディスプレイは使用していません。
匿名での相談に応じますので、プライバシーは固く保護されます。

被災女性のための相談電話

パープル・ホットライン

災害や性暴力など、おもわぬ困難や被害に直面したとき、いつでも、どこからでも、無料でかけられるフリーダイヤルです。あなたの声をきかせてください。あなたに寄り添い、一緒に行動する支援者に必ずつながります。

TEL 0120-941-826(通話料無料)
※原則24時間いつでも相談可能です。